

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

調査概要

調査日時：平成30年4月17日（火）

調査事項：

①児童生徒に対する調査：国語,算数・数学,理科及び質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

調査対象及び集計対象児童生徒・学校数：

	小学校				中学校			
	児童数		学校数		生徒数		学校数	
	調査対象児童数※1	4月17日に調査を実施した児童数※2	調査対象学校数	4月17日に調査を実施した学校数	調査対象生徒数※1	4月17日に調査を実施した生徒数※2	調査対象学校数	4月17日に調査を実施した学校数
公立	1,058,472人	1,030,031人	19,433校	19,386校 (99.8%)	1,018,983人	967,196人	9,630校	9,597校 (99.7%)
国立	6,509人	6,399人	75校	75校 (100.0%)	10,731人	9,988人	80校	77校 (96.3%)
私立	12,949人	6,990人	225校	122校 (54.2%)	80,271人	30,906人	763校	366校 (48.0%)
合計	1,077,930人	1,043,420人	19,733校	19,583校 (99.2%)	1,109,985人	1,008,090人	10,473校	10,040校 (95.9%)

※1 調査対象児童生徒数について,公立・国立は,調査実施前に学校から申告された児童生徒数,私立は,平成29年度学校基本調査による。調査当日までの転出入等により増減の可能性はある。

※2 調査を実施した児童生徒数は,回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

教科の調査結果

全国（国公私）の平均正答率・数

	小学校					中学校				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成30年度	70.9% 8.5 /12問	54.8% 4.4 /8問	63.7% 8.9 /14問	51.7% 5.2 /10問	60.4% 9.7 /16問	76.4% 24.4 /32問	61.7% 5.6 /9問	66.6% 24.0 /36問	47.6% 6.7 /14問	66.5% 17.9 /27問
(参考値) 平成29年度	74.9% 11.2 /15問	57.6% 5.2 /9問	78.8% 11.8 /15問	46.2% 5.1 /11問	61.0% 14.6 /24問	77.8% 24.9 /32問	72.7% 6.5 /9問	65.2% 23.5 /36問	48.7% 7.3 /15問	53.5% 13.4 /25問

※1 理科についての参考値は,前回実施時（平成27年度）のもの。

今年度の変更点

- ・ 3年ぶりの理科実施
- ・ 調査結果提供の早期化

小学校算数

- 2つの異なる量がある場合,単位量を設定することで比較できるという,「比べ方」を理解することはできている。
- 小数の除法の意味について理解や,グラフから読み取ったことに基づいて適切に判断することに課題がある。
- 日常生活の事象を,数量を関連付け,根拠を明確にして記述することに課題がある。

□ 「混み具合」を比べる場合,単位面積当たりの人数か,単位人数当たりの面積を,単位量として設定することはできている。

面積がそろっている⑦と⑧の二つのシートの混み具合について,正しいものを選ぶ設問 【A4(1)】87.9%

□ 図形の基礎となる「角」の概念は,知識として定着している。

角⑨の角の大きさが,何度であるかを選ぶ設問 【A5(1)】94.5%

■ 小数の除法の意味について理解することに課題がある。

答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ設問 【A2】40.1%

■ 百分率を求めることに課題がある。

200人のうち80人が小学生のとき,小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ設問 【A8】53.1%

■ 敷き詰め模様の中から図形を見だし,その構成要素や性質を基に,1つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述することに課題がある。

一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを,着目した図形とその角の大きさを基に書く設問 【B1(2)】48.5%

■ メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け,総数や変化に着目していることを解釈し,それを記述することに課題がある。

メモ1とメモ2は,それぞれ,グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く設問 【B3(1)】20.9%

■ 示された考えを解釈し,条件を変更した場合について考察した数量の関係を,表現方法を適用して記述することに課題がある。

横に並んでいる七つの数について,示された表現方法を適用して書く設問 【B4(2)】59.8%

■ 折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を,枚数,本数,個数などの数量を関連付け,根拠を明確にして記述することに課題がある。

横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が,100枚あれば足りるわけを書く設問 【B5(1)】43.5%

中学校数学

- 平面図形の運動による空間図形の構成についての理解,球が回転体としてどのように構成されているかの理解,見取図,投影図から空間図形を読み取ることはできている。
- 比例における比例定数の意味の理解について,改善の傾向がみられる。
- 事象を数学的に解釈し,問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- 数学的な結果を事象に即して解釈することを通して,成り立つ事柄を判断し,その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

□ 球が回転体としてどのように構成されているかの理解,見取図,投影図から空間図形を読み取ることはできている。

半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く設問 【A5(2)】82.8%
与えられた円柱の見取図から,その円柱の投影図を選ぶ設問 【A5(3)】84.0%

□ 比例における比例定数の意味の理解について,改善の傾向がみられる。

比例 $y=5x$ について,正しい記述を選ぶ設問 【A9(1)】66.4%

■ 目的に応じて式を変形することに課題がある。

等式 $S=\frac{1}{2}ah$ を, a について解く設問 【A2(4)】49.2%

■ 証明の必要性と意味の理解に引き続き課題がある。

対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ設問 【A8】46.1%

■ 一次関数の意味の理解に課題がある。

歩いた道のりと,残りの道のりの関係について,正しい記述を選ぶ設問 【A12】36.3%

■ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え,判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する設問 【B1(3)】37.2%

■ 事象を数学的に解釈し,問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

A駅からの道のりが6kmの地点において,列車Aが通ってから列車Eが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する設問 【B3(3)】13.9%

■ 数学的な結果を事象に即して解釈することを通して,成り立つ事柄を判断し,その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

通常料金を a としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び,その理由を説明する設問 【B5(2)】10.9%

小学校理科

- 観察,実験の結果を整理し分析して考察することはできている。
- 観察・実験の結果を整理し分析して考察した内容を記述することや,予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したり,実験結果を基により妥当な考えに改善し,その内容を記述することに課題がある。

□ 安全に留意し,生物を愛護する態度をもった解決方法を構想することはできている。

〔野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ設問 【1(1)】82.1%〕

□ 適切な実験技能の理解として,ろ過の適切な操作技能の定着に改善の傾向が見られる。

〔ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら,誤った操作に気づき,適切に操作する方法を選ぶ設問 【4(1)】71.2%〕

□ より妥当な考えをつくりだすために,2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することは,できている。

〔海水と水道水を区別するために,2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ設問 【4(2)】89.4%〕

■ より妥当な考えをつくりだすために,実験結果を基に分析して考察し,その内容を記述することに課題がある。

〔一度に流す水の量と棒の様子との関係から,大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び,選んだわけを書く設問 【2(3)】20.2%〕

■ 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したり,実験結果を基により妥当な考えに改善し,その内容を記述することに課題がある。

〔流れる水の働きによる土地の侵食について,自分の考えと異なる他者の予想を基に,斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ設問 【2(2)】55.5%〕

〔回路を流れる電流の流れ方について,自分の考えと異なる他者の予想を基に,検流計の針の向きと目盛りを選ぶ設問 【3(2)】47.9%〕

〔回路を流れる電流の向きと大きさについて,実験結果から考え直した内容を選ぶ設問 【3(3)】59.6%〕
〔食塩水を熱したときの食塩の蒸発について,実験を通して導きだす結論を書く設問 【4(4)】36.0%〕

中学校理科

- 習得した知識・技能を活用して,観察・実験の結果を分析して解釈することには改善が見られる。
- 実験や条件制御などにおいて,自分や他者の考えを検討して改善することに課題がある。
- 自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し,条件を制御して実験を計画することに課題がある。

□ 軟体動物を指摘すること,物質を原子の記号で表すこと,植物の蒸散を指摘することはできている。

〔軟体動物の適切な組合せを選択する設問 【2(1)】86.2%〕
〔アルミニウムを原子の記号で表す設問 【8(1)】83.7%〕
〔水蒸気が植物から出る働き of 名称を選択する設問 【9(1)】88.1%〕

□ 習得した知識・技能を活用して,観察・実験の結果を分析して解釈することには改善が見られる。

〔結果を分析して解釈し,課題に正対した考察を記述した空欄に適切な言葉を選択する設問 【2(3)】80.0%〕
〔 【6(3)】91.5%〕

■ 特定の質量パーセント濃度における水溶液の物質の質量と水の質量を求めることに依然として課題がある。

〔質量パーセント濃度が3.0%の食塩水を選択する設問 【2(2)】47.3%〕

■ 広域の気象情報と観測者が捉える気象現象とを関連付け,空間と方位,時間の観点から気象現象を捉えることに課題がある。

〔台風と自宅の位置から風向を考え,南に向いたときに観測される風向を選択する設問 【3(1)】37.8%〕

■ 実験や条件制御などにおいて,自分や他者の考えを検討して改善することに課題がある。

〔【新たな実験】で明るさに伴って変わってしまう条件を記述する設問 【2(4)】61.9%〕
〔考察を条件制御の視点から見直し,空欄に適切な言葉を記述する設問 【3(3)】52.8%〕
〔化学変化をモデルで表した式を検討して改善し,適切な酸素のモデルを記述する設問 【4(3)】50.0%〕

■ 自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し,条件を制御して実験を計画することに課題がある。

〔炎の色と金網につくススの量を調べる実験において,変えない条件を記述する設問 【4(2)】44.5%〕
〔植物の蒸散以外で,容器中の湿度を上げる原因を記述する設問 【9(2)】19.8%〕

2. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から（進んで）取り組むことができていると思いますか」との質問（新規）に、肯定的に回答した小中学校の割合は8割を超えており、肯定的に回答した児童生徒の割合は7割を超えている。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られた。

○就学援助を受けている児童生徒の割合を考慮した三重クロス分析（学校質問紙）でも、同様の傾向が見られた。

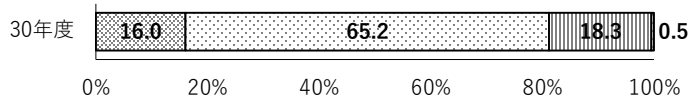
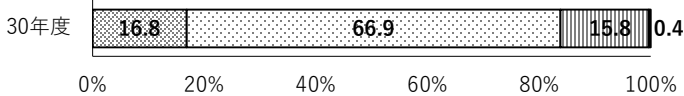
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。（新規）

小学校

中学校

回答割合

■ そのとおりだと思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない □ その他、無回答



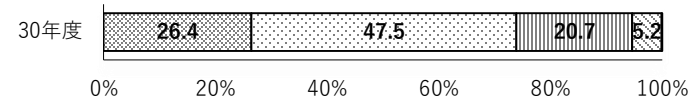
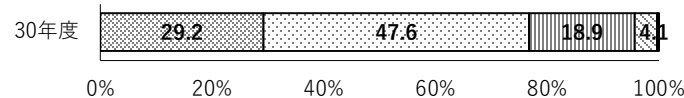
【児童生徒質問紙】 5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思いますか。（新規）

小学校

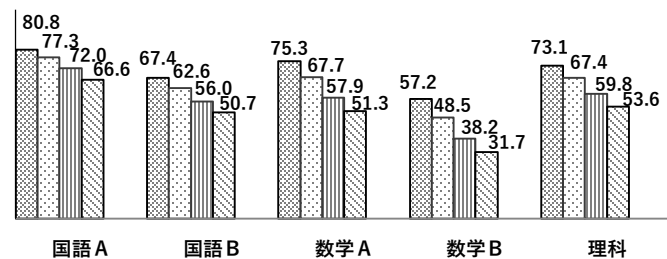
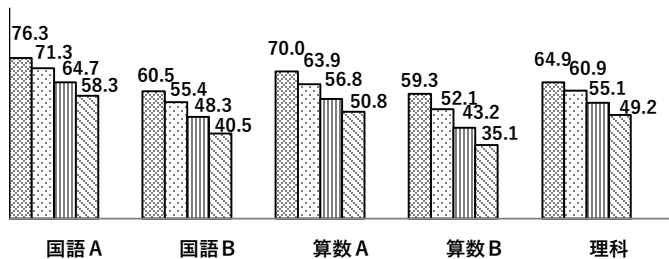
中学校

回答割合

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない □ その他、無回答



選択肢毎の平均正答率



三重クロス分析（就学援助率と教科毎の平均正答率別）

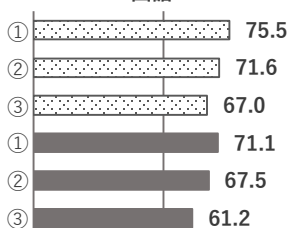
※データは公立のみ

■ 就学援助を受けている児童生徒の在籍割合5%未満 ■ 30%以上

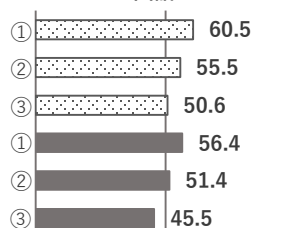
① そのとおりだと思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない

※「そう思わない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外

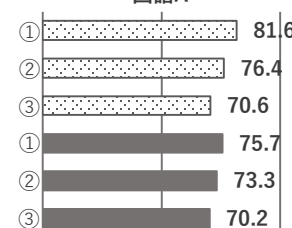
国語A



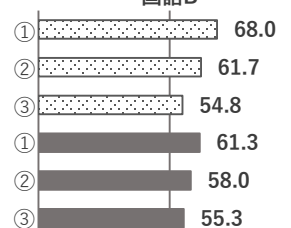
国語B



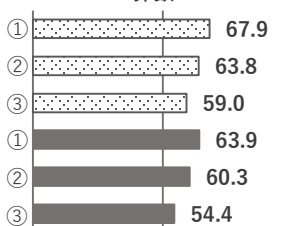
国語A



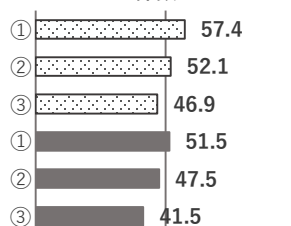
国語B



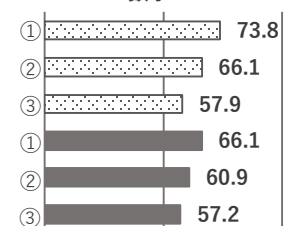
算数A



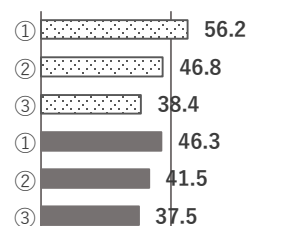
算数B



数学A



数学B



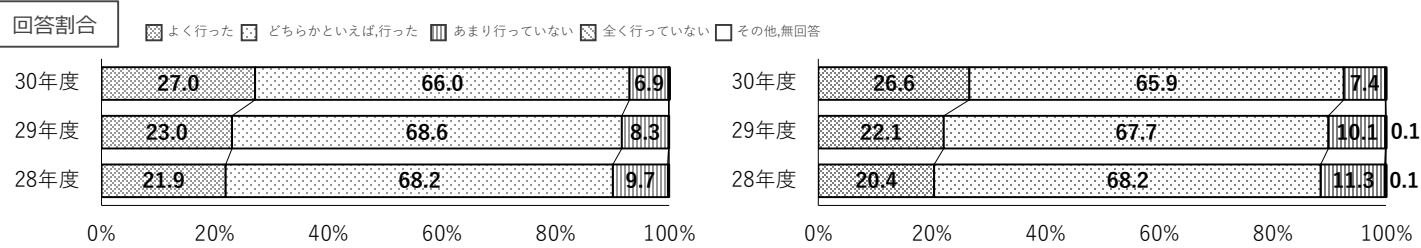
2. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は、平成28年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は9割を超えている。また、この質問に肯定的に回答した小中学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られた。
- 「学級の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成29年度と比べて増加しており、平成30年度は7割を超えている。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られた。

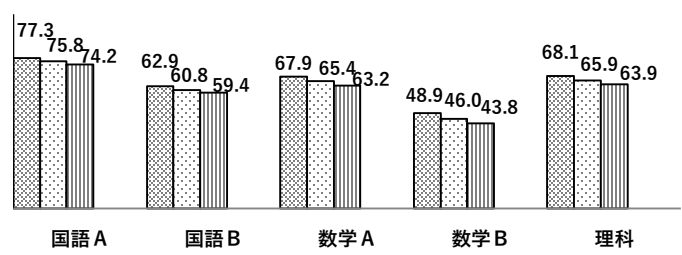
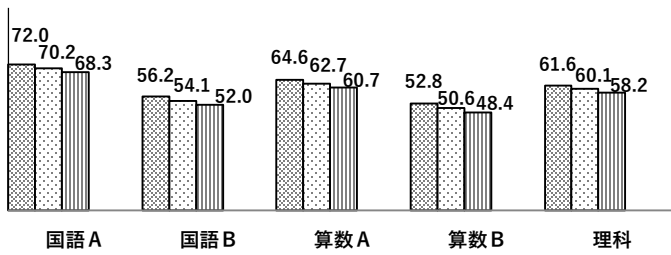
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

小学校

中学校



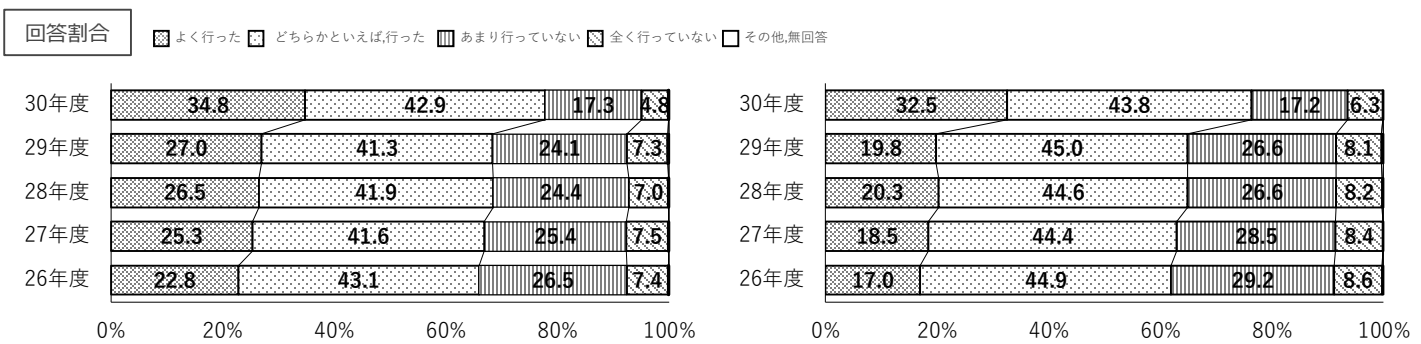
選択肢毎の平均正答率



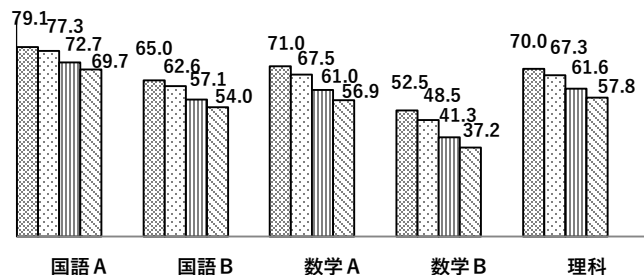
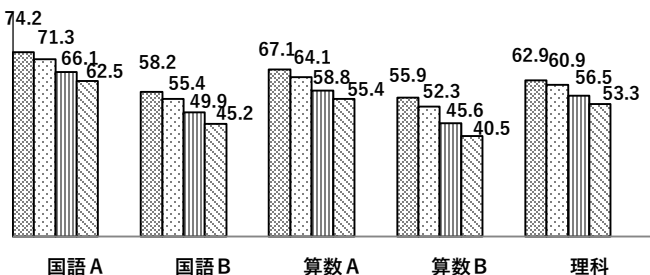
【児童生徒質問紙】 学校の友達と〔生徒〕の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

小学校

中学校



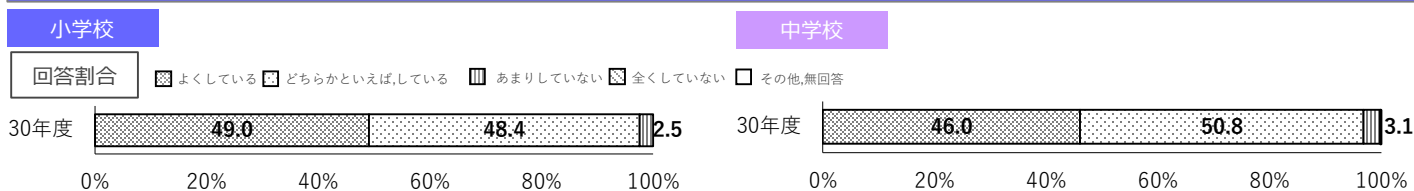
選択肢毎の平均正答率



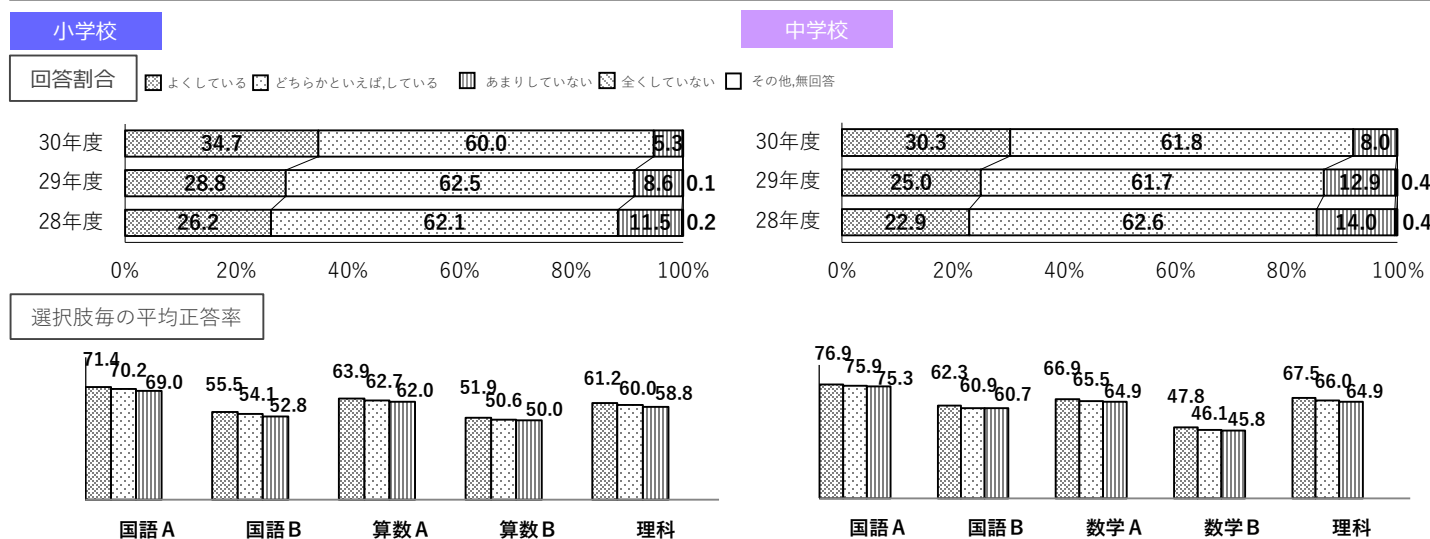
3. 学校運営に関する取組状況

- 「学校として業務改善に取り組んでいますか」との質問（新規）に、肯定的に回答した小中学校の割合は、9割を超えている。
- 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は、平成28年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は9割を超えている。また、この質問に肯定的に回答した小中学校の方が、平均正答率が高い傾向が見られた。
- 業務改善に取り組んでいる小中学校の方が、児童生徒の姿や地域の現状等に基づいた教育課程編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルを確立したり、学習指導と学習評価の計画作成にあたり、教職員同士が協力し合ったりするなどの傾向が見られた。

【学校質問紙】学校として業務改善に取り組んでいますか。（新規）

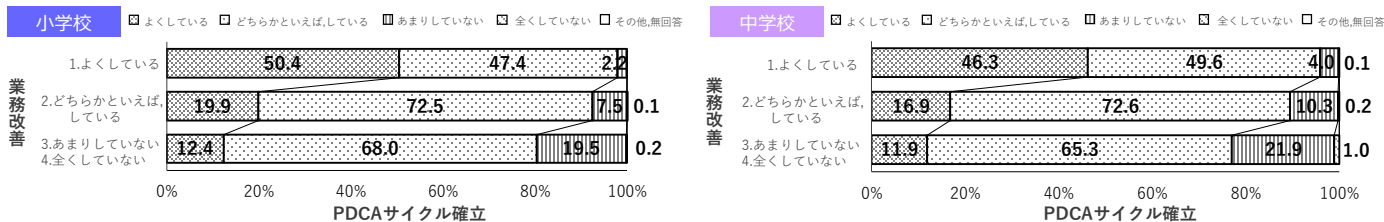


【学校質問紙】児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



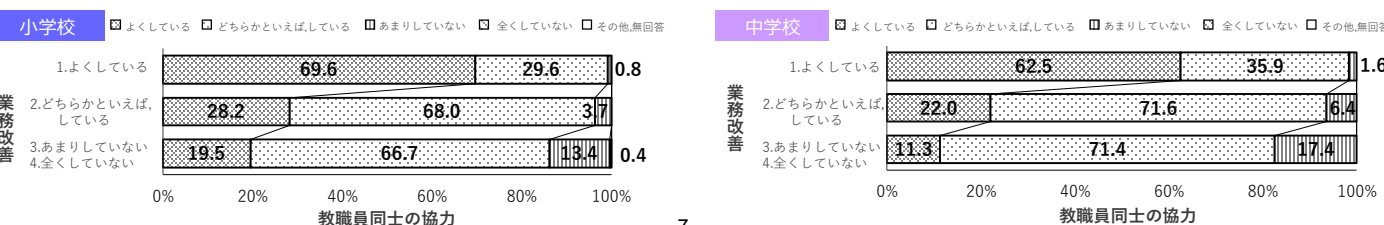
① [業務改善] と [PDCAサイクル確立] の関係

(学) 業務改善に取り組んでいる × (学) 各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



② [業務改善] と [学習指導等の計画作成時の教職員同士の協力] の関係

(学) 業務改善に取り組んでいる × (学) 学習指導と学習評価の計画作成時、教職員同士が協力している



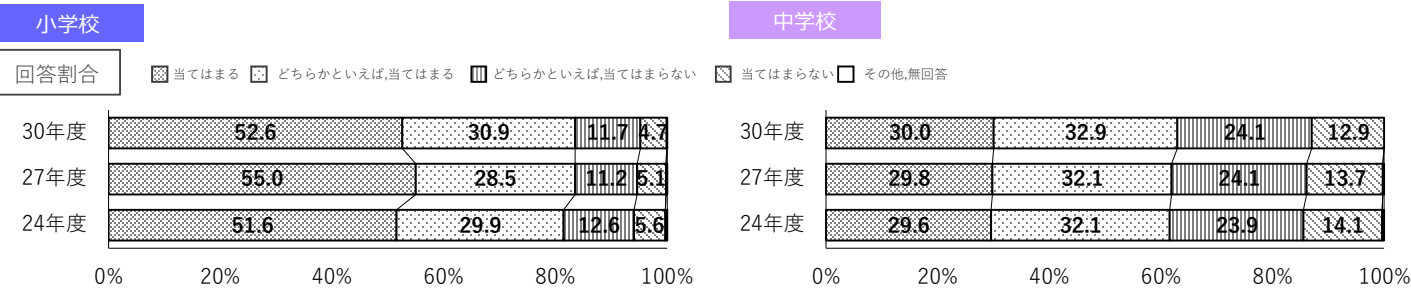
4. 理科に関する状況

(1) 児童生徒の興味・関心、授業の理解度等

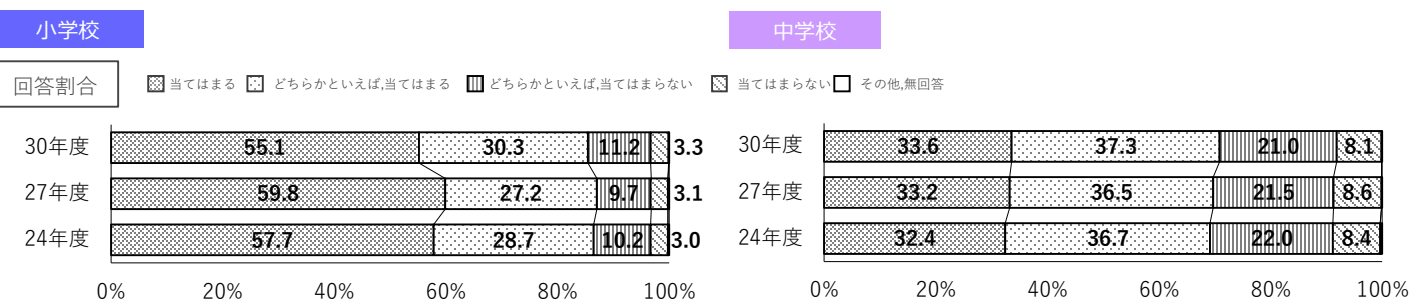
- 理科に関する興味・関心、授業の理解度等についての一連の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成24年度、平成27年度に比べて、若干の増加、または、ほぼ横ばいの傾向が見られる。
- 「理科の勉強は大切だと思いますか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は8割、生徒の割合は7割を超える。「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童の割合は7割を超え、生徒の割合は平成24年度以降、増加傾向が見られるものの、6割を下回っている。

■ 児童生徒の興味・関心、授業の理解度等

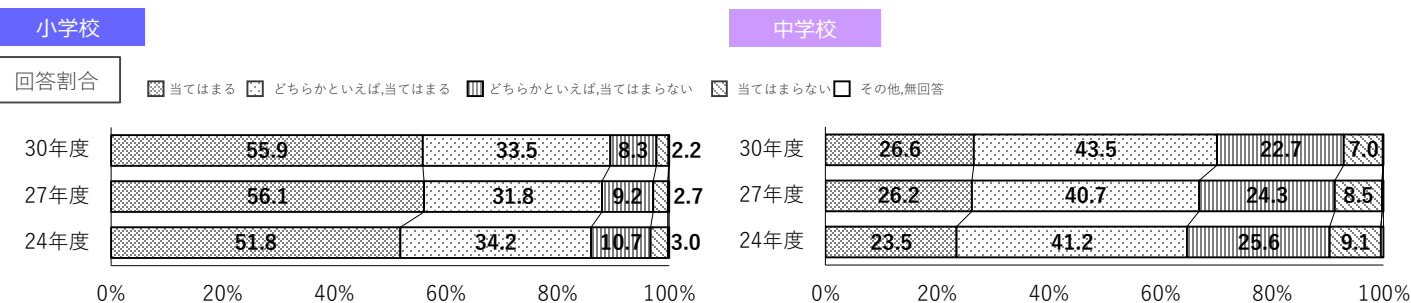
【児童生徒質問紙】理科の勉強は好きですか。



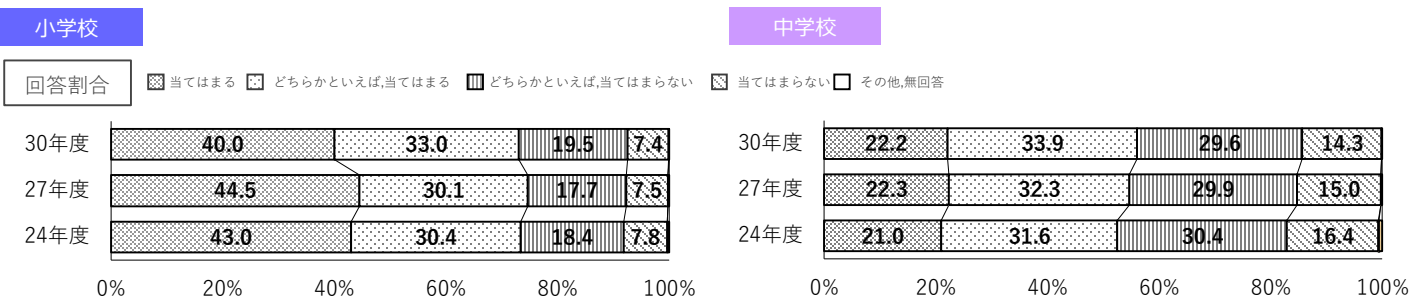
【児童生徒質問紙】理科の勉強は大切だと思いますか。



【児童生徒質問紙】理科の授業の内容はよく分かりますか。



【児童生徒質問紙】理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



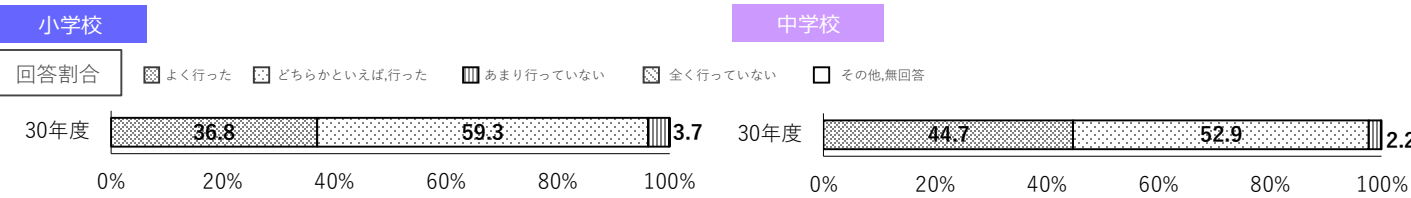
4. 理科に関する状況

(1) 児童生徒の興味・関心,授業の理解度等

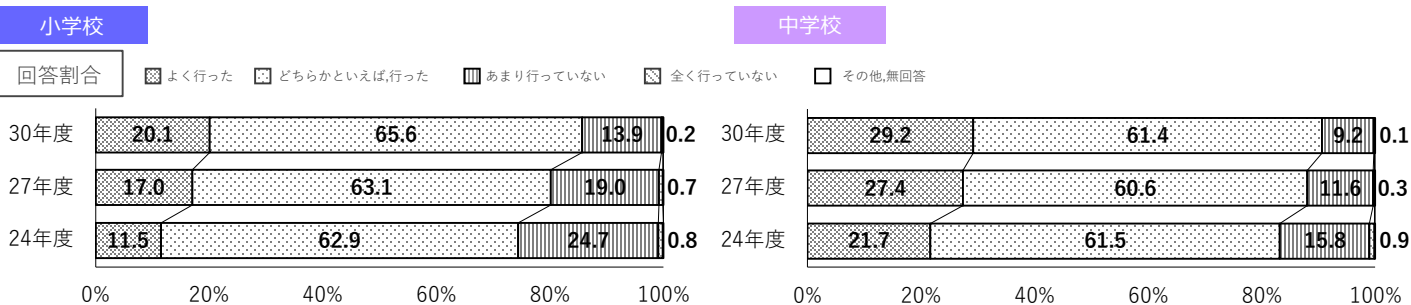
- 「理科の授業において,児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう,工夫していましたか」という質問(新規)に,肯定的に回答した小中学校の割合は,9割を超えている。
- 児童生徒の興味・関心につながるような学校の取組に関する質問(「実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」,「科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか」)に,肯定的に回答した小中学校の割合は,平成24年度,平成27年度に比べて,増加傾向が見られた。
- 理科の授業において,児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう工夫している小中学校の児童生徒の方が,「理科の勉強が好きだ」と回答する傾向が見られた。

■ 児童生徒の興味・関心につながる学校の取組

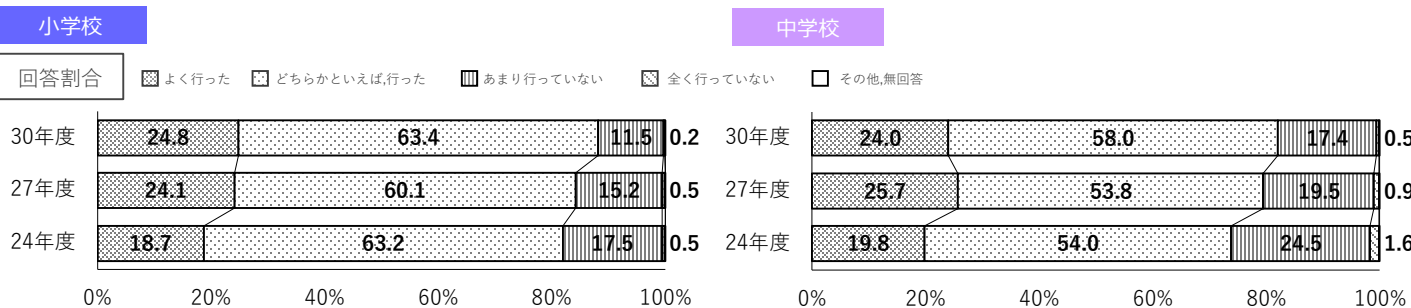
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において,前年度に,児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう,工夫していましたか。(新規)



【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して,前年度までに,実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



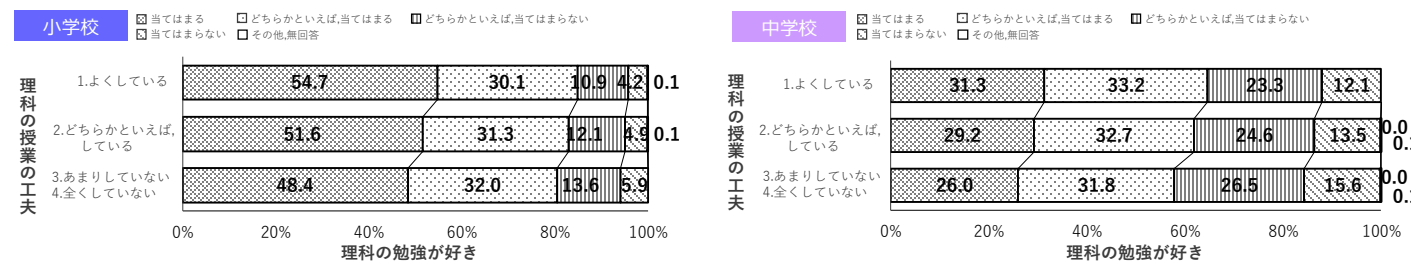
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して,前年度までに,児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか。



【理科の授業での工夫】と【児童生徒の意識】の関係

(学) 理科の授業において,児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう工夫した

(児) 理科の勉強が好き

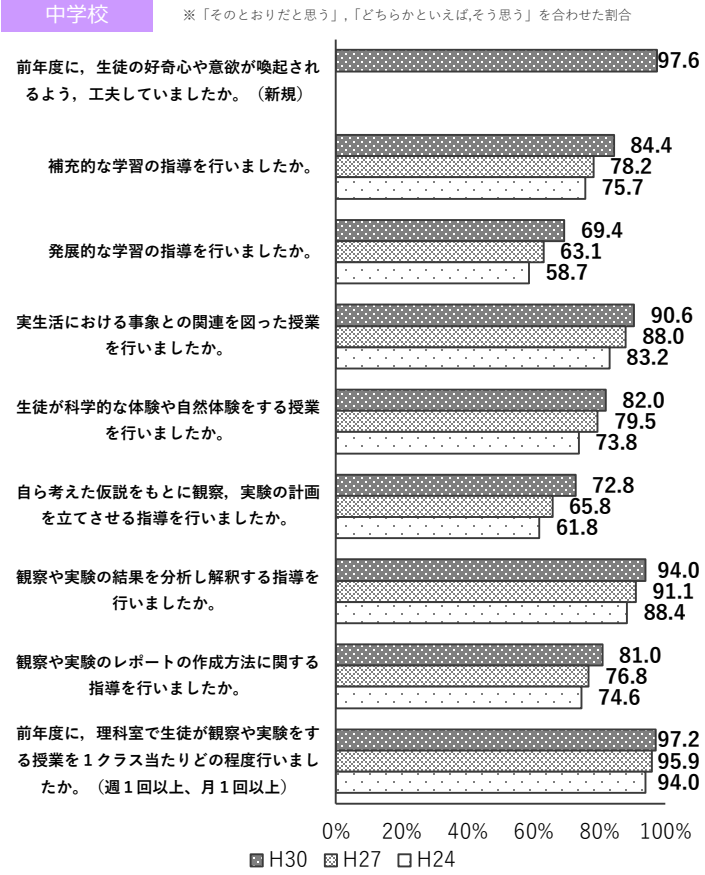
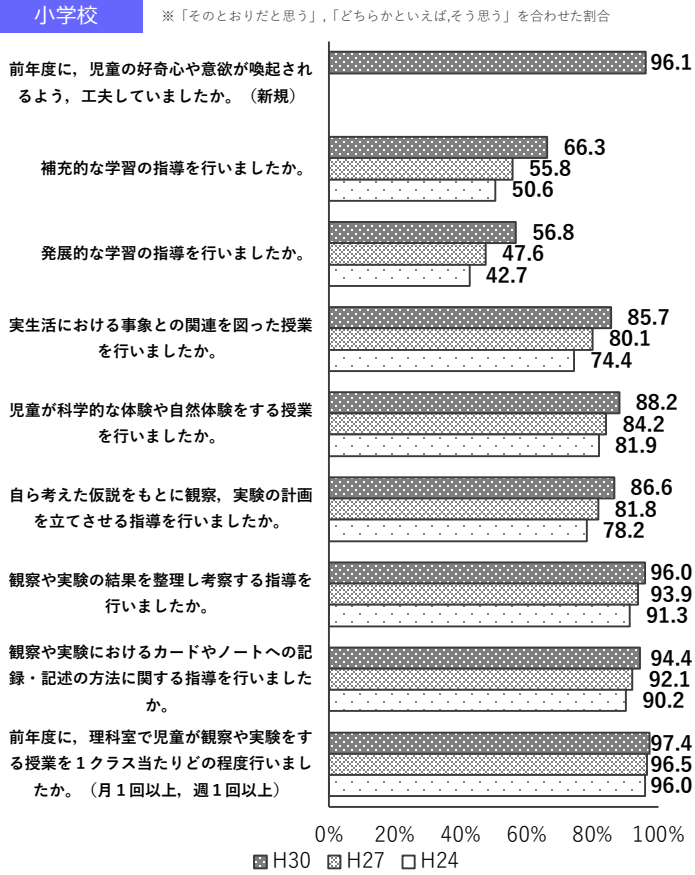


4. 理科に関する状況

(2) 理科に関する指導方法と学力

- 理科に関する指導方法について、肯定的に回答した小中学校の割合は、平成24年度、平成27年度に比べて、すべての質問で、増加傾向が見られた。
- 「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」（「観察や実験の結果をもとに考察している」）と回答した児童生徒は、理科だけでなく、国語、算数・数学の平均正答率も高い傾向が見られた。就学援助を受けている児童生徒の割合を考慮した三重クロス分析（学校質問紙）でも、同様の傾向が見られた。

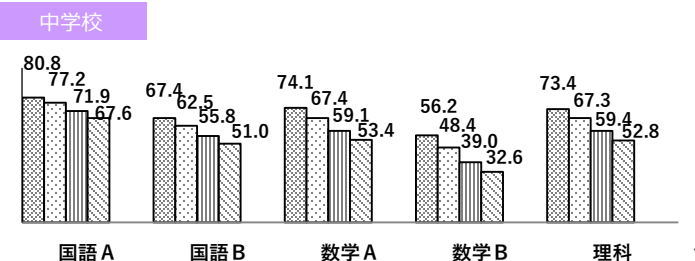
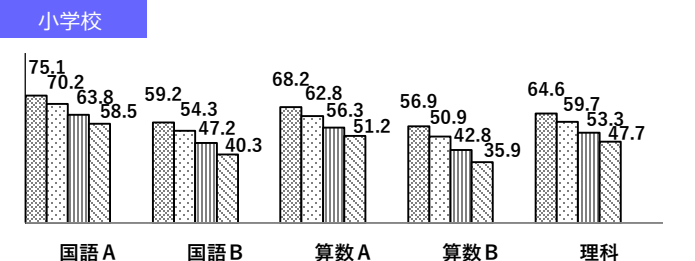
【学校質問紙】理科に関する学習指導方法の変化



【児童生徒質問紙】理科の授業における観察や実験の結果の考察と平均正答率

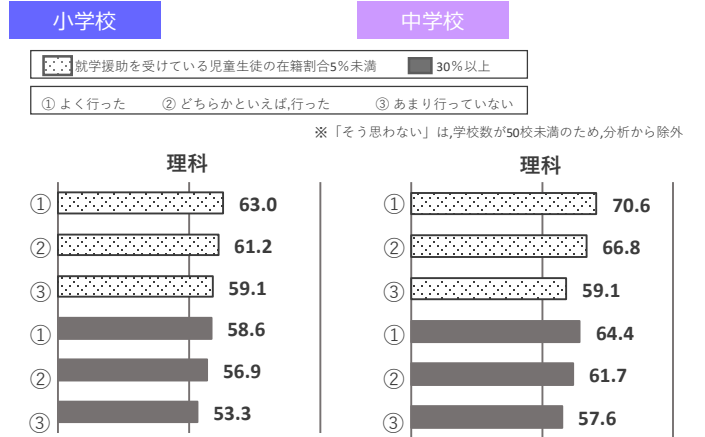
選択肢毎の平均正答率

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか。

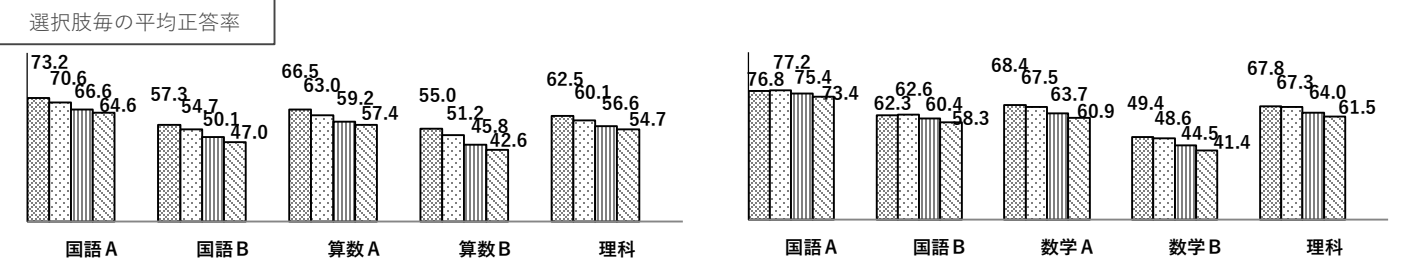
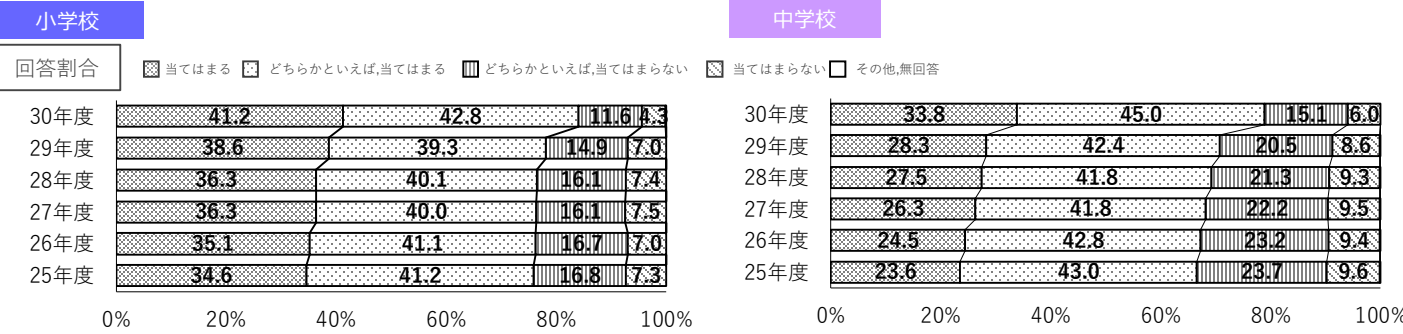
三重クロス分析（就学援助率別の平均正答率） ※データは公立のみ



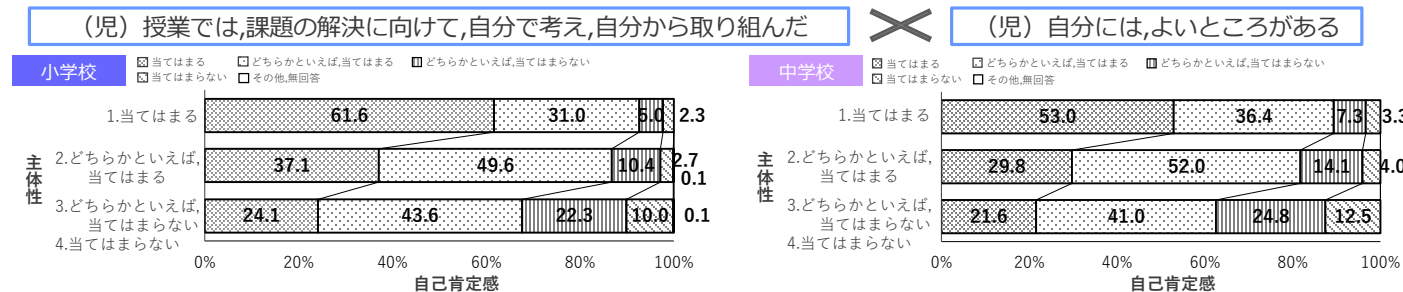
5. 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成25年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は約8割となった。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られた（ただし、中学校国語においては「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の平均正答率が最も高かった）。
- 課題解決に向けた主体性、他者との協働に関して肯定的な児童生徒、先生に認められていると感じている児童生徒の方が、自己肯定感が高い傾向が見られた。

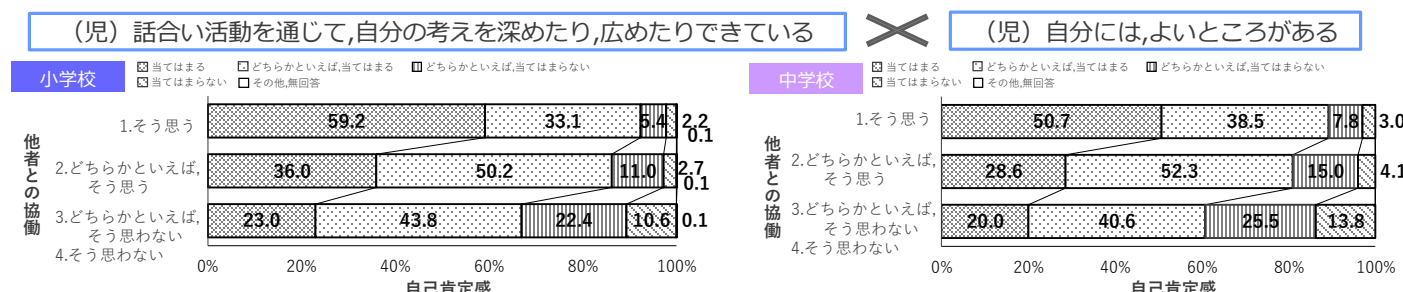
【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか。



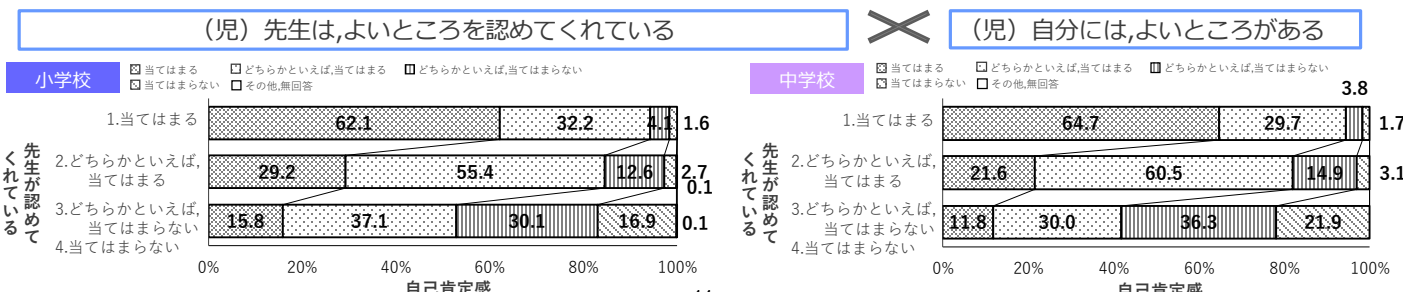
① [課題解決に向けた主体性] と [自己肯定感] の関係



② [他者との協働] と [自己肯定感] の関係



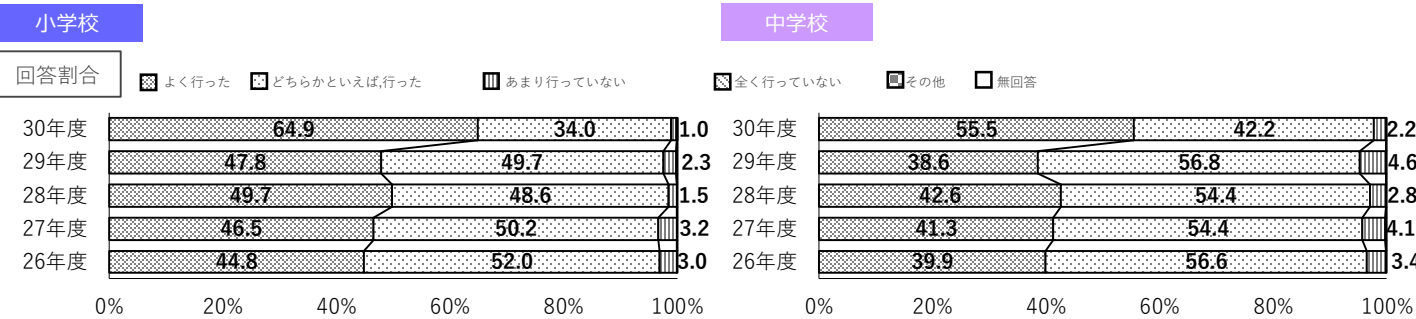
③ [先生が認めてくれている] と [自己肯定感] の関係



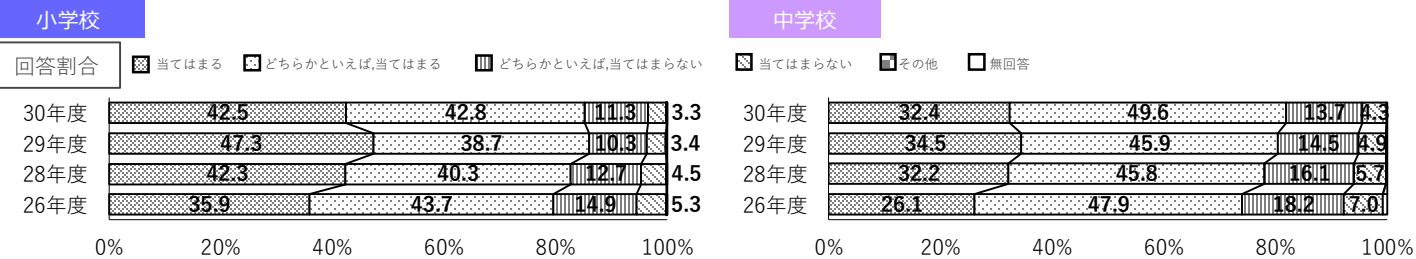
5. 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は、平成26年度以降、大きな変化は見られないが、平成30年度は増加しており、9割を超えている。特に、平成30年度は、平成29年度に比べて、「よく行った」と回答した学校の割合が増加している。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成26年度以降、増加傾向が見られた。（ただし、平成30年度は、平成29年度に比べて、「当てはまる」と回答した割合が減少している。）
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成25年度以降、9割を超えて推移しており、特に、平成30年度は、平成29年度に比べて、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増加している。

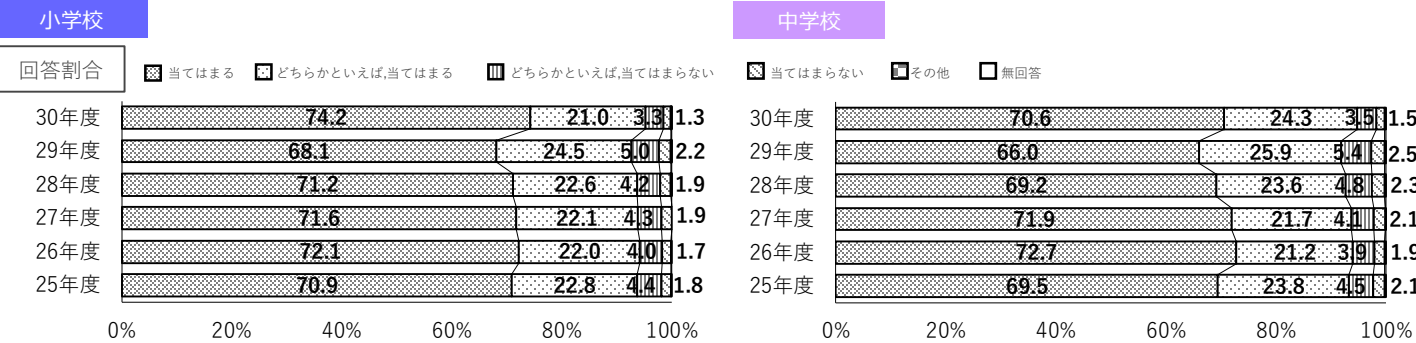
【学校質問紙】 調査対象の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。



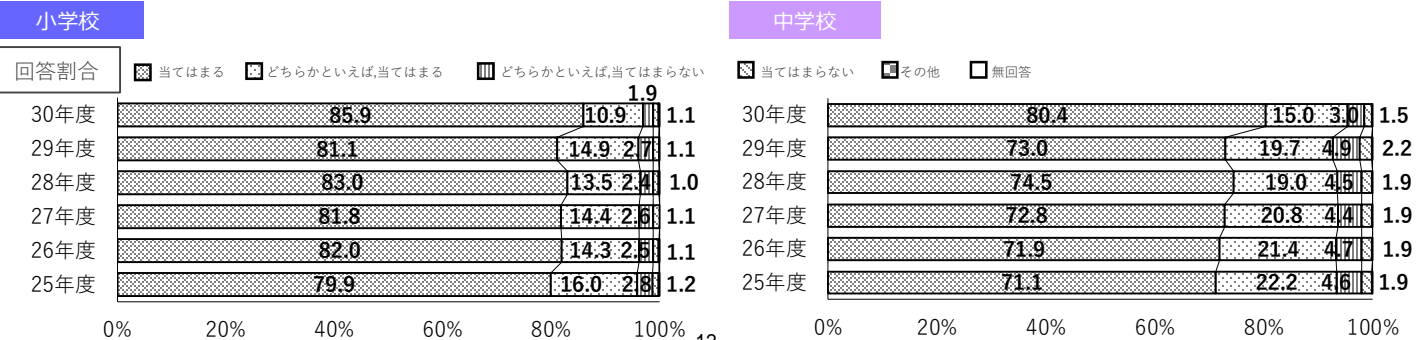
【児童生徒質問紙】 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



【児童生徒質問紙】 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



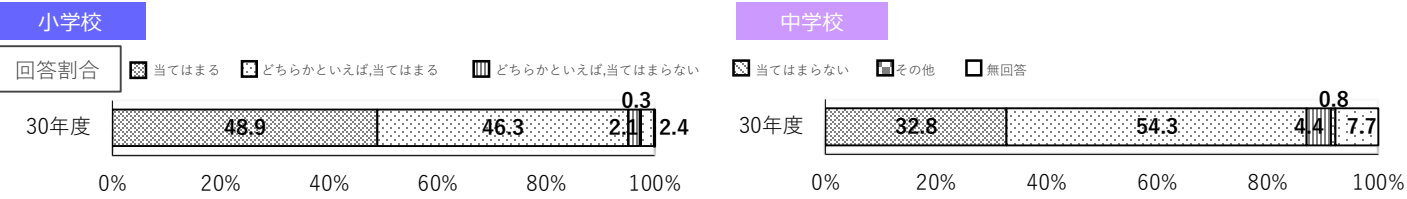
【児童生徒質問紙】 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



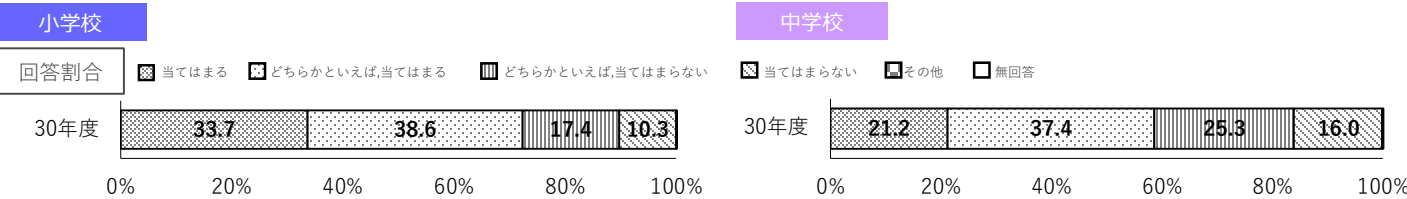
6. 地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

- 「保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか」との質問（新規）に、肯定的に回答した学校の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超えている。
- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合は7割を超え、中学校の割合は6割近い。
- 保護者や地域の人が見守り、放課後支援などの活動に参加している小学校の割合は9割を超え、中学校の割合は9割近い。
- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどを活用したり、地域人材が学校の活動に参加したりしている小中学校の方が、「保護者や地域の人との協働による取組は学校の教育水準の向上に効果がある」と回答する傾向が見られた。

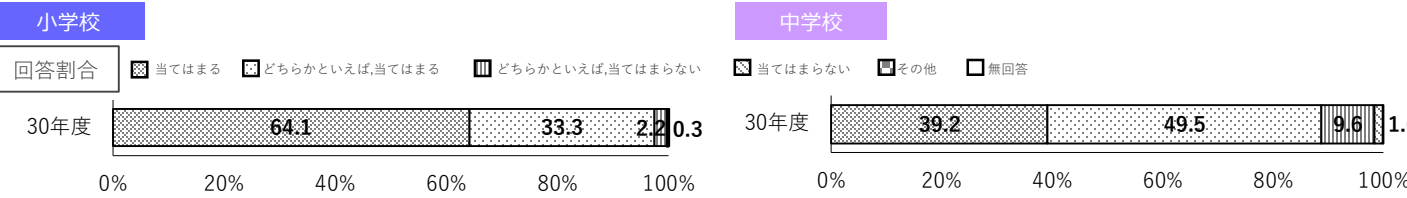
【学校質問紙】 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか。（新規）



【学校質問紙】 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。（新規）



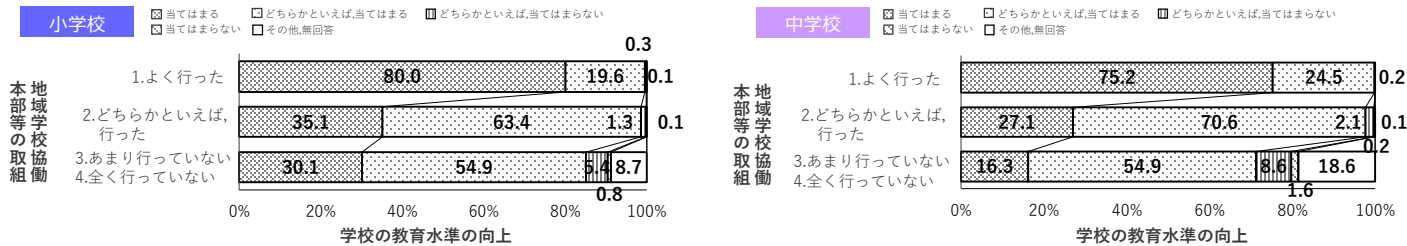
【学校質問紙】 保護者や地域の人が見守り、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか。（新規）



① [地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの取組] と [学校の教育水準の向上] の関係

(学) 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った

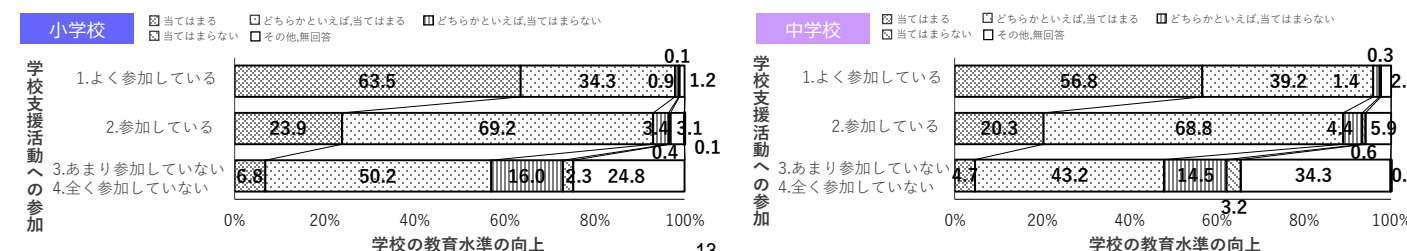
(学) 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった



② [保護者や地域の人々の学校支援活動への参加] と [学校の教育水準の向上] の関係

(学) 保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などに参加した

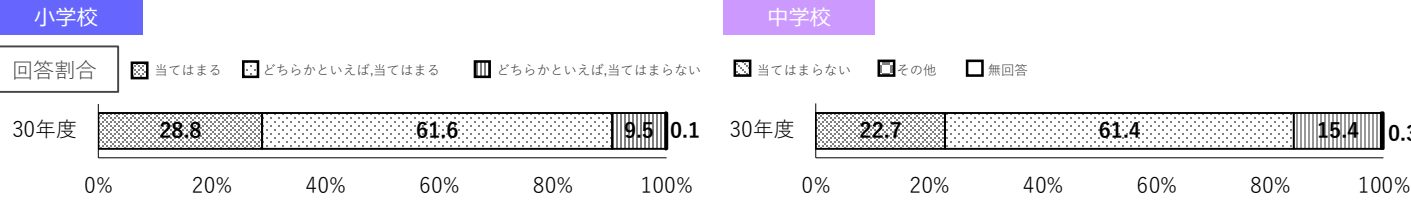
(学) 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった



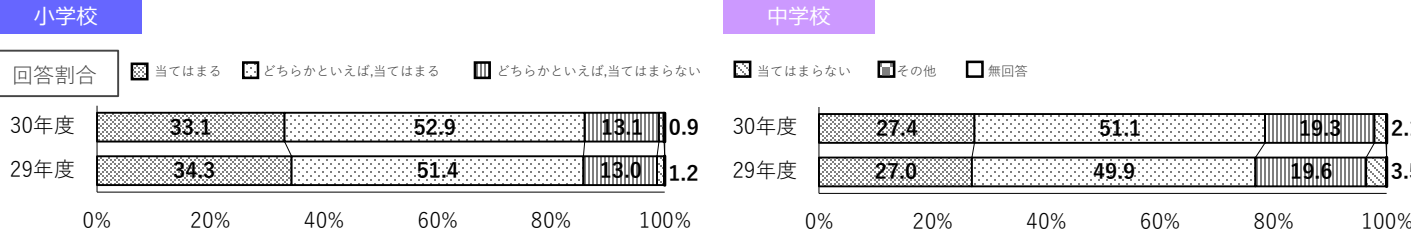
6. 地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

- 「教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っていますか」との質問（新規）に、肯定的に回答した学校の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超えている。
- 「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校は、平成29年度と比べて、大きな変化は見られない。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成25年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度の児童の割合は約5割、生徒の割合は4割近い。
- 授業や課外活動において地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設けている小中学校の方が、「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている」と回答する傾向が見られた。

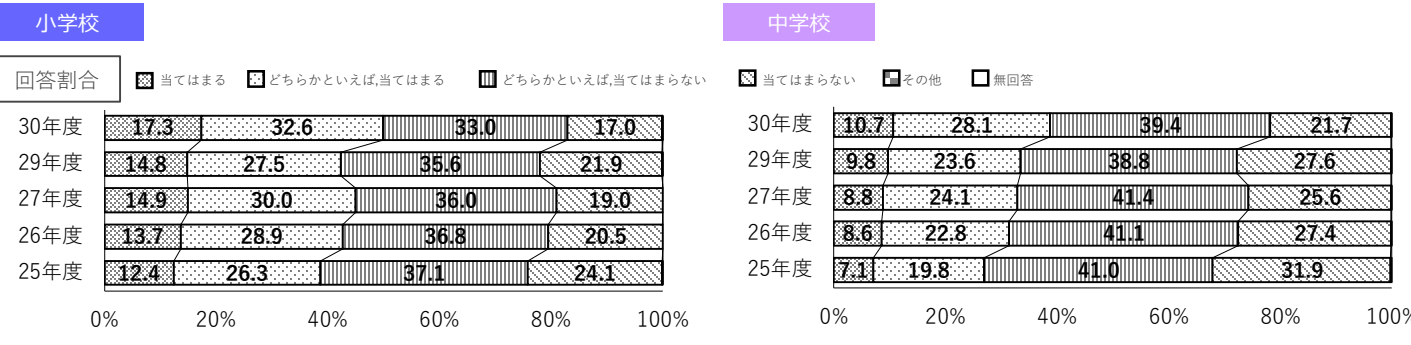
【学校質問紙】教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。（新規）



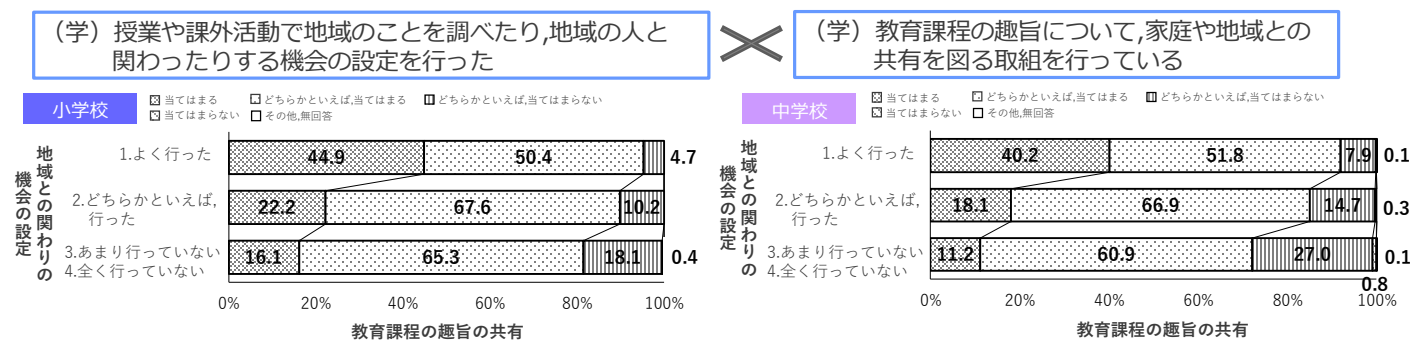
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか。



【児童生徒質問紙】地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか。



【授業における地域との関わりの機会の設定】と【教育課程の趣旨についての共有】の関係



都道府県別・平均正答率 推移一覽
全国（都道府県別を含む）－児童（公立）

※都道府県の平均正答率は、公立のみの数字である。

	国語A					国語B					算数A					算数B					理科		
	30年度	(参考) 29年度	(参考) 28年度※	(参考) 27年度	(参考) 26年度	30年度	(参考) 29年度	(参考) 28年度※	(参考) 27年度	(参考) 26年度	30年度	(参考) 29年度	(参考) 28年度※	(参考) 27年度	(参考) 26年度	30年度	(参考) 29年度	(参考) 28年度※	(参考) 27年度	(参考) 26年度	30年度	(参考) 27年度	(参考) 24年度
全国 (国公立)	71	75	73	70.2	73.1	55	58	58	65.6	55.6	64	79	78	75.3	78.2	52	46	47	45.2	58.4	60	61.0	61.1
全国 (公立)	71	75	73	70.0	72.9	55	58	58	65.4	55.5	64	79	78	75.2	78.1	52	46	47	45.0	58.2	60	60.8	60.9
北海道	70	74	71	68.1	71.8	53	56	56	63.0	52.9	62	77	75	72.3	75.8	49	44	45	42.5	55.2	59	59.3	58.8
青森県	75	79	77	75.1	76.6	57	59	60	69.8	60.5	65	80	80	78.5	81.3	53	48	48	47.4	60.8	62	66.3	65.9
岩手県	74	77	73	73.1	73.7	57	60	60	67.9	58.3	63	81	78	75.6	78.9	51	45	47	42.8	58.7	61	61.6	63.1
宮城県	69	74	72	69.6	74.2	53	56	56	63.9	54.3	62	77	77	74.1	77.3	49	44	46	42.7	56.8	59	59.6	62.1
秋田県	77	80	77	76.0	77.4	61	64	64	76.4	67.3	67	84	82	81.2	85.1	57	50	52	51.5	66.2	66	66.7	68.4
山形県	71	76	72	70.6	74.3	54	55	58	63.6	56.7	63	77	76	73.4	77.8	51	44	46	42.1	57.7	62	62.0	63.2
福島県	72	76	73	71.0	73.3	54	57	57	65.3	57.0	64	81	77	74.3	78.7	51	45	46	42.4	57.8	60	60.7	61.7
茨城県	71	76	74	71.2	76.9	56	59	59	67.2	57.4	65	81	78	75.4	79.7	52	47	48	45.1	58.6	63	64.2	63.1
栃木県	71	75	71	68.9	71.9	55	57	56	63.1	54.5	63	79	75	73.9	77.7	51	45	45	43.0	56.8	61	60.0	59.5
群馬県	71	75	72	71.1	73.6	54	57	57	64.2	55.5	62	78	78	74.9	78.0	50	44	46	43.2	57.8	61	61.7	61.2
埼玉県	71	75	72	68.7	72.5	54	57	57	64.2	55.5	62	76	76	73.1	76.9	50	45	46	43.1	57.8	59	59.2	60.4
千葉県	70	75	73	71.5	75.8	53	57	58	64.5	55.5	62	77	77	74.7	78.2	51	46	47	45.1	58.8	61	61.9	62.6
東京都	74	76	74	72.3	75.5	57	60	60	66.5	57.2	67	81	79	77.4	79.4	55	49	50	47.8	61.2	62	62.4	62.9
神奈川県	70	73	70	67.9	71.3	54	57	58	64.3	54.6	64	77	77	74.0	76.9	52	46	47	44.8	58.6	60	60.4	60.8
新潟県	72	77	76	73.2	74.5	57	59	60	67.2	58.8	66	80	80	77.4	80.0	51	46	48	44.9	59.4	60	63.1	61.7
富山県	74	78	75	72.9	74.1	58	60	61	70.1	59.5	66	82	81	78.5	81.0	55	47	51	47.5	62.0	64	67.5	65.6
石川県	76	79	79	74.4	74.1	61	64	63	73.5	62.7	68	85	82	80.3	82.5	59	53	54	50.4	63.6	66	66.7	66.6
福井県	76	78	77	73.8	74.6	57	60	63	72.1	61.8	66	82	82	79.2	83.1	56	51	52	50.0	64.1	64	66.8	67.1
山梨県	71	74	71	68.5	70.1	54	56	58	64.8	55.0	62	77	77	74.1	77.0	50	43	47	41.9	57.6	60	60.4	61.3
長野県	72	75	74	70.4	72.6	55	57	59	66.4	57.0	62	78	77	75.0	79.1	50	46	47	45.4	59.0	61	61.3	61.1
岐阜県	72	74	73	67.8	70.2	56	58	59	65.9	54.8	63	77	77	73.8	76.9	51	45	47	43.6	56.9	61	60.8	61.7
静岡県	69	74	77	71.7	72.8	56	59	59	67.8	58.4	63	78	79	77.2	79.4	51	46	47	45.3	58.5	60	60.2	58.1
愛知県	68	73	71	66.6	70.5	52	55	56	63.0	52.4	61	76	76	73.4	75.8	50	46	46	45.7	57.4	58	59.3	60.1
三重県	70	74	72	68.0	69.6	54	57	58	65.3	52.5	63	77	78	74.8	76.2	50	45	47	44.1	56.0	59	59.2	58.0
滋賀県	68	73	73	68.6	71.0	53	56	57	63.7	52.7	60	76	76	72.7	75.6	49	43	46	43.0	55.3	58	58.0	58.5
京都府	73	76	74	72.1	73.3	56	59	59	67.5	56.9	65	80	80	77.6	79.9	53	48	49	47.5	59.7	62	62.2	62.4
大阪府	68	72	71	67.6	70.7	52	54	55	62.7	52.6	63	78	77	74.8	77.3	51	45	46	44.1	56.3	57	57.3	57.8
兵庫県	70	75	73	70.1	72.9	54	57	58	65.5	54.6	63	78	78	75.2	77.7	52	46	47	46.9	58.4	59	60.3	59.7
奈良県	69	74	72	70.5	73.2	53	56	57	64.7	53.5	63	78	77	75.5	78.6	50	45	46	44.8	57.7	59	60.0	61.7
和歌山県	72	75	70	69.5	69.4	55	57	56	64.5	53.4	63	79	77	75.6	76.8	51	46	46	44.9	55.7	60	59.0	58.0
鳥取県	71	76	75	71.5	77.0	55	57	58	66.8	56.5	62	77	77	74.6	78.6	50	46	47	45.2	58.1	60	60.1	59.6
島根県	68	75	75	69.3	73.6	55	58	57	63.8	54.5	61	77	77	72.4	76.3	49	43	46	42.2	56.5	58	59.8	61.1
岡山県	71	75	73	69.2	71.4	54	58	58	64.5	54.5	62	79	77	75.2	77.8	50	46	47	44.8	56.6	60	59.9	59.8
広島県	73	77	78	73.8	75.9	59	61	61	69.7	58.3	66	81	80	77.7	80.7	54	47	50	46.7	60.1	63	63.2	62.9
山口県	72	76	75	72.1	73.6	57	58	59	67.5	57.8	64	79	78	77.1	79.5	52	45	48	46.4	58.6	62	62.7	61.2
徳島県	70	75	76	68.5	70.1	54	56	57	66.1	53.8	61	79	77	74.6	76.9	50	46	45	45.5	55.8	59	59.7	59.4
香川県	69	75	75	72.3	75.5	58	59	60	69.5	58.8	64	79	78	74.3	78.5	53	48	47	47.0	59.5	60	62.3	64.3
愛媛県	72	77	74	69.9	72.6	55	59	61	67.7	57.2	65	82	81	75.1	77.9	54	50	49	47.9	57.6	61	63.9	60.2
高知県	70	75	77	73.4	74.4	55	57	58	67.0	55.0	65	82	80	77.0	79.2	53	46	47	44.6	57.9	60	60.3	59.6
福岡県	71	76	72	69.8	72.0	55	58	58	65.1	54.4	63	79	78	74.7	77.7	51	46	47	44.2	57.4	61	59.5	59.9
佐賀県	71	75	73	70.4	73.5	54	56	57	64.6	54.6	63	80	78	74.6	77.6	51	44	46	43.7	57.3	61	61.0	60.8
長崎県	69	73	72	69.0	71.9	54	56	57	64.1	53.5	62	78	78	74.0	78.0	50	43	47	43.5	57.2	60	58.8	60.6
熊本県	71	76	—	70.2	71.6	56	57	—	64.0	54.8	64	80	—	75.5	79.3	51	46	—	45.6	58.5	62	62.6	63.5
大分県	72	76	73	71.5	73.6	56	58	58	66.7	57.2	65	81	78	76.7	79.8	52	46	47	44.6	58.4	63	62.8	59.7
宮崎県	71	76	75	72.1	73.7	54	55	56	64.0	53.8	62	79	77	73.7	77.9	50	44	46	43.7	55.9	60	60.0	60.4
鹿児島県	70	75	72	68.4	72.5	53	55	57	65.8	55.2	64	79	79	75.9	78.5	49	45	45	42.5	55.3	59	63.4	63.4
沖縄県	68	73	73	69.3	72.0	56	57	58	67.3	54.5	66	81	81	77.7	80.9	52	46	48	44.7	57.1	61	59.0	55.5

※平成28年度において、熊本県の集計値は掲載しない。

都道府県別・平均正答率 推移一覧

全国（指定都市を域内を含む道府県全体から指定都市を除いたもの）－児童（公立）

※都道府県の平均正答率は、公立のみの数字である。

	国語A		国語B		算数A		算数B		理科
	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	
全国 (国公立)	71	75	55	58	64	79	52	46	60
全国 (公立)	71	75	55	58	64	79	52	46	60
北海道	69	73	52	55	61	77	48	42	59
宮城県	67	73	52	54	60	76	47	42	57
埼玉県	70	74	53	56	61	75	49	44	58
千葉県	70	75	53	57	62	77	50	46	61
神奈川県	67	71	52	55	60	75	48	43	58
新潟県	72	76	56	58	65	79	51	45	59
静岡県	69	74	55	58	63	78	51	45	60
愛知県	68	73	52	55	61	76	50	46	58
京都府	73	75	55	58	64	80	53	48	60
大阪府	69	72	52	55	64	78	51	45	58
兵庫県	70	75	54	57	63	78	52	46	60
岡山県	71	74	54	57	62	79	49	45	60
広島県	74	77	60	62	67	82	54	48	64
福岡県	71	76	56	58	64	80	51	46	61
熊本県	71	76	56	57	64	80	51	46	62

指定都市別・平均正答率 推移一覽

全国（指定都市別）一児童（公立）

※指定都市の平均正答率は、公立のみの数字である。

	国語A		国語B		算数A		算数B		理科
	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度
全国 (国公立)	71	75	55	58	64	79	52	46	60
全国 (公立)	71	75	55	58	64	79	52	46	60
札幌市	71	74	53	58	63	78	51	46	59
仙台市	71	76	54	58	64	78	52	46	61
さいたま市	74	77	58	60	65	80	54	48	63
千葉市	71	76	54	59	64	78	52	48	62
横浜市	73	75	56	59	66	80	54	48	61
川崎市	72	75	57	60	66	80	55	50	61
相模原市	69	71	52	55	61	73	48	42	58
新潟市	73	78	59	61	66	81	53	48	62
静岡市	72	75	57	59	64	78	51	47	60
浜松市	69	74	55	59	61	81	51	47	60
名古屋市	67	72	52	56	61	76	51	46	60
京都市	74	76	57	59	66	80	54	49	64
大阪市	66	71	51	53	62	75	49	42	55
堺市	71	74	54	56	65	81	52	47	59
神戸市	70	74	53	57	64	79	53	47	58
岡山市	71	76	55	60	62	79	51	48	61
広島市	72	76	58	60	64	79	54	46	62
北九州市	71	74	54	57	61	77	50	44	60
福岡市	72	77	56	59	64	80	52	46	62
熊本市	70	77	56	58	63	80	51	47	62

都道府県別・平均正答率 推移一覧

全国（都道府県別を含む）一生徒（公立）

※都道府県の平均正答率は、公立のみの数字である。

	国語A					国語B					数学A					数学B					理科		
	30年度	(参考)29年度	(参考)28年度※	(参考)27年度	(参考)26年度	30年度	(参考)29年度	(参考)28年度※	(参考)27年度	(参考)26年度	30年度	(参考)29年度	(参考)28年度※	(参考)27年度	(参考)26年度	30年度	(参考)29年度	(参考)28年度※	(参考)27年度	(参考)26年度	30年度	(参考)27年度	(参考)24年度
全国(国公立)	76	78	76	76.2	79.8	62	73	67	66.2	51.6	67	65	63	65.0	67.9	48	49	45	42.4	60.5	67	53.5	52.1
全国(公立)	76	77	76	75.8	79.4	61	72	67	65.8	51.0	66	65	62	64.4	67.4	47	48	44	41.6	59.8	66	53.0	51.0
北海道	77	77	75	75.8	79.4	61	72	65	65.7	49.9	65	64	62	63.0	66.0	46	47	43	39.7	59.4	67	53.3	50.5
青森県	77	78	76	76.0	81.0	61	73	66	64.8	52.0	67	66	64	64.4	69.3	46	48	45	39.8	60.7	68	53.8	52.1
岩手県	76	78	76	75.5	80.5	61	72	66	64.8	51.8	62	60	58	60.1	64.1	43	45	41	36.7	57.5	65	50.7	51.1
宮城県	77	77	77	76.1	80.3	62	73	68	66.2	52.0	65	63	60	63.1	65.6	47	47	44	40.7	59.4	67	53.7	52.7
秋田県	80	82	79	80.8	84.4	66	78	72	70.7	55.8	70	68	67	68.4	73.0	51	52	48	46.9	65.5	70	59.6	56.1
山形県	77	78	77	76.8	80.6	61	72	67	66.3	52.1	65	63	61	63.4	67.6	46	46	43	40.3	60.2	68	54.9	54.9
福島県	76	78	76	75.2	79.4	61	72	65	64.5	50.5	64	63	59	61.2	64.7	44	47	41	38.1	56.8	66	52.5	52.2
茨城県	77	78	77	76.4	79.9	62	74	69	67.5	52.3	66	65	61	63.1	66.5	47	48	45	41.4	57.8	68	54.9	52.4
栃木県	76	77	76	75.7	79.3	61	73	67	65.2	51.4	65	64	61	63.5	66.9	46	48	43	40.4	59.3	67	53.1	51.5
群馬県	77	79	77	77.0	81.1	63	75	69	67.4	54.2	67	65	63	65.3	69.2	48	50	46	42.6	62.6	69	57.0	55.2
埼玉県	75	76	75	74.9	79.4	61	72	66	64.7	51.5	65	63	60	63.2	66.2	47	48	43	40.4	59.3	65	51.6	48.8
千葉県	76	76	76	76.0	79.8	61	72	67	65.7	51.7	64	63	60	63.4	66.7	46	47	43	41.6	60.1	65	52.0	50.1
東京都	77	79	77	77.2	80.7	63	74	69	67.0	53.2	67	66	64	66.3	68.8	49	50	46	44.0	61.8	65	52.5	50.1
神奈川県	76	77	75	76.0	79.2	62	72	67	66.5	51.5	66	64	62	65.0	67.0	48	48	44	43.3	60.8	66	52.8	49.6
新潟県	77	77	77	76.0	79.5	62	73	67	66.0	50.3	67	66	62	64.4	67.9	47	48	44	42.2	59.8	66	52.1	50.4
富山県	78	80	78	78.1	82.3	63	75	71	68.2	55.1	70	68	65	67.1	71.1	51	50	49	44.5	63.6	70	59.2	56.8
石川県	79	82	78	78.1	81.9	65	77	71	69.1	53.7	71	69	66	67.8	70.9	52	53	49	44.9	63.4	71	58.2	56.3
福井県	79	82	78	79.5	83.0	64	77	70	69.8	55.9	72	73	69	71.1	74.3	53	54	51	47.7	66.9	71	61.3	57.8
山梨県	76	79	75	76.1	80.0	62	74	68	66.2	52.0	66	64	61	63.6	66.6	48	49	44	41.2	59.7	67	54.1	52.1
長野県	76	78	76	76.2	79.7	61	72	66	65.0	49.4	65	64	61	63.5	67.2	46	48	44	40.6	58.1	66	52.8	51.0
岐阜県	76	79	76	76.4	79.8	62	74	69	68.3	52.0	67	66	64	65.7	69.8	49	50	46	44.2	61.3	68	56.8	54.5
静岡県	78	78	77	76.3	80.8	63	74	70	67.7	52.5	68	67	64	66.0	70.9	49	50	47	44.6	63.7	68	55.3	53.2
愛知県	76	78	76	76.4	79.2	61	73	66	66.3	51.5	69	67	65	67.2	69.7	49	50	47	43.8	62.5	68	56.1	53.7
三重県	75	77	74	75.0	78.0	60	71	64	64.3	49.0	67	65	62	64.3	67.1	46	47	43	40.6	58.3	66	51.9	50.6
滋賀県	75	76	74	74.1	77.9	58	69	63	63.8	48.8	65	63	61	63.8	66.5	45	47	42	39.2	56.3	64	50.3	51.1
京都府	77	78	76	76.7	79.4	62	73	67	66.5	51.3	67	66	63	65.3	67.7	48	49	45	42.5	60.1	66	52.6	49.5
大阪府	75	75	74	74.4	77.0	59	69	63	64.8	47.2	65	64	62	64.3	65.0	46	46	43	41.4	56.9	64	50.8	47.8
兵庫県	77	78	76	77.1	79.9	61	72	66	65.9	51.1	69	68	66	67.1	69.6	48	50	46	42.8	61.3	67	53.3	51.9
奈良県	76	78	76	76.2	79.0	60	72	66	65.1	50.8	66	65	64	65.3	68.5	46	48	44	41.7	60.5	64	51.5	51.1
和歌山県	75	77	74	73.4	77.4	59	70	63	62.9	47.5	67	65	62	64.0	65.9	45	48	43	39.6	56.8	65	50.1	49.8
鳥取県	76	77	77	76.9	79.5	60	72	67	66.2	51.2	66	63	63	64.3	67.4	45	48	44	41.2	59.7	66	53.0	52.4
島根県	76	77	76	75.7	80.2	61	72	68	65.6	52.0	64	62	60	62.7	66.1	45	46	42	39.6	59.1	66	53.1	50.7
岡山県	76	77	75	74.8	78.2	59	71	64	63.5	48.1	65	64	60	62.9	65.4	44	47	41	38.3	55.9	66	51.5	51.2
広島県	76	78	77	76.5	80.1	61	73	68	67.0	50.9	66	64	62	64.6	68.4	46	48	45	42.7	60.5	66	52.2	50.2
山口県	77	79	77	76.4	80.7	61	73	68	66.3	52.4	67	66	64	65.3	70.3	46	49	45	42.4	62.6	67	53.0	52.6
徳島県	77	78	76	75.7	79.3	60	71	64	64.3	49.8	69	67	65	65.4	68.5	47	49	44	39.9	58.1	67	52.4	51.0
香川県	76	78	77	76.0	79.3	60	71	68	64.9	51.4	67	66	64	64.4	67.8	46	49	45	41.3	60.0	66	53.2	51.5
愛媛県	77	79	77	77.0	80.3	62	74	69	66.5	52.8	69	67	64	65.4	68.7	49	51	47	43.2	62.9	68	55.2	52.0
高知県	75	76	75	73.3	77.2	60	69	65	62.9	47.7	64	62	59	59.9	62.7	43	45	40	36.2	53.6	64	47.3	47.3
福岡県	75	77	75	74.6	78.4	61	71	66	64.5	49.6	65	63	60	62.2	65.6	46	46	42	39.8	57.8	65	51.3	49.7
佐賀県	75	77	75	73.9	78.0	59	70	65	63.3	48.8	64	62	59	61.7	64.0	44	46	41	38.6	56.5	64	49.6	49.2
長崎県	75	77	75	75.5	79.0	60	72	67	66.0	49.8	65	64	62	64.1	66.9	45	48	43	40.3	59.2	66	51.6	50.7
熊本県	75	77	—	75.2	79.0	59	71	—	66.2	51.3	65	63	—	64.0	67.4	46	47	—	41.6	61.6	66	54.4	52.7
大分県	77	79	75	75.9	79.8	62	73	66	65.6	50.2	66	64	61	63.0	66.6	45	47	42	39.4	57.4	67	52.9	51.5
宮崎県	75	78	75	74.0	78.4	59	71	65	64.7	50.2	66	65	62	63.8	68.4	44	47	43	40.0	59.9	65	51.1	52.7
鹿児島県	75	75	74	73.3	78.1	58	70	64	64.1	49.1	64	61	60	61.7	65.5	45	46	41	39.4	58.4	65	51.9	49.6
沖縄県	72	72	71	70.0	74.4	58	67	63	61.3	45.6	59	58	54	55.8	58.2	40	42	37	34.0	50.3	61	45.9	41.4

※平成28年度において、熊本県の集計値を掲載しない。

都道府県別・平均正答率 推移一覽

全国（指定都市を域内に含む道府県全体から指定都市を除いたもの）－生徒（公立）

※都道府県の平均正答率は、公立のみの数字である。

	国語A		国語B		数学A		数学B		理科
	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	
全国 (国公立)	76	78	62	73	67	65	48	49	67
全国 (公立)	76	77	61	72	66	65	47	48	66
北海道	76	75	60	70	64	63	44	46	66
宮城県	75	74	59	70	61	59	43	44	64
埼玉県	74	75	60	71	64	62	46	47	64
千葉県	76	76	61	72	64	62	46	46	65
神奈川県	75	76	61	71	65	63	46	47	65
新潟県	77	77	61	73	67	66	46	48	66
静岡県	77	78	62	74	68	67	49	50	67
愛知県	76	78	61	73	69	67	49	49	68
京都府	77	78	62	73	67	66	48	49	66
大阪府	75	76	60	70	66	64	46	47	64
兵庫県	77	78	61	72	69	67	48	49	67
岡山県	76	78	59	71	65	64	44	47	65
広島県	77	79	62	73	67	65	46	49	66
福岡県	75	77	60	71	64	63	45	46	65
熊本県	74	76	59	70	64	62	45	47	65

指定都市別・平均正答率 推移一覧

全国（指定都市別）－生徒（公立）

※指定都市の平均正答率は、公立のみの数字である。

	国語A		国語B		数学A		数学B		理科
	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度	(参考) 29年度	30年度
全国 (国公立)	76	78	62	73	67	65	48	49	67
全国 (公立)	76	77	61	72	66	65	47	48	66
札幌市	78	79	63	74	67	66	48	49	68
仙台市	79	81	65	77	70	68	52	52	71
さいたま市	79	80	65	76	70	68	51	51	68
千葉市	76	77	62	72	65	64	47	49	67
横浜市	76	78	63	74	67	65	50	50	66
川崎市	77	78	63	73	66	65	49	49	66
相模原市	74	77	61	72	63	62	45	47	64
新潟市	76	77	63	74	68	66	49	49	67
静岡市	78	80	64	74	68	68	50	50	67
浜松市	78	79	64	74	68	66	49	49	69
名古屋市	76	77	62	73	69	66	51	51	68
京都市	77	78	62	73	67	65	48	49	66
大阪市	74	74	58	68	63	62	44	45	63
堺市	74	75	59	68	65	63	44	46	63
神戸市	77	78	61	72	69	68	49	50	68
岡山市	76	77	59	70	65	64	45	46	66
広島市	76	77	60	72	65	63	46	48	65
北九州市	75	77	60	70	63	62	44	45	64
福岡市	77	78	62	72	67	64	49	47	67
熊本市	76	78	60	72	66	65	47	48	67